

日本心血管理学療法学会「COVID-19 関連情報特別チーム」
海外の専門情報

No.14

調査者	藤田 吾郎、井澤 和大
情報ソースの刊行日	2020年4月20日
情報ソースの調査日	2020年4月21日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年4月29日
日本語タイトル	コロナウイルスパンデミック段階における心臓血管疾患の一次および二次予防
情報ソース	Duffy EY, et al. Primary and Secondary Prevention of Cardiovascular Disease in the Era of the Coronavirus Pandemic. Circulation. 20 Apr 2020.
情報のカテゴリー	心疾患全般
発信地域	北アメリカ (米国)
DOI	10.1161/CIRCULATIONAHA.120.047194
URL	https://www.ahajournals.org/doi/10.1161/CIRCULATIONAHA.120.047194
要約	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19 パンデミック段階でも心臓血管疾患予防に向けた取り組みは、継続されるべきである。 この公衆衛生上の危機は、予防的循環器ケアの提供および健康的なライフスタイルの実施を劇的に変化させた。 モバイルヘルスデバイス、フィットネスを促進するゲーム、アクティビティトラック（睡眠の質や運動量等を自動計測するクリップ型あるいはリストバンド型の活動量計）の活用は、身体活動を促進できる。 遠隔医療とリモートモニタリングにより、患者への頻繁な連絡が容易となり、危険因子管理の最適化、投薬の滴定、食事と身体活動レベルの評価、注意喚起の統合などの機能が実現する。 遠隔医療やその他のテクノロジーの併合の強化により、非常にきめ細かい監視が可能となり、患者の軌跡データが生成される。 患者は、医師に依存せず、自身の心臓血管予防に対する自己管理能力が強化される機会となる。 セルフケアの向上とeヘルス（遠隔医療）の追跡・調査の利点の評価は、今後数年間で心臓血管アウトカム研究の主要分野となる。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> COVID-19による危機的状況は、心臓血管疾患の一次および二次予防のあり方を大きく変える契機となる。 遠隔心臓リハの注目度は、今後さらに高まる。 患者自身のアドヒアランス向上を見直す機会になる。